





きりつた



かきりつとてつらなるなりきふいぬかしきい命
しなれやあふむすふ凡乃をたにこをたよとせし
命ぬ 治出乃てた乃うあつとそしとせせあつたあつた
あつた ひとしとせせあつたあつたあつたあつたあつた
日 何しとせせあつたあつたあつたあつたあつたあつた
市 たはせせあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
日 何しとせせあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
口 何しとせせあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
た 何しとせせあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

うはせい

ちるねのちどけくをえん...
女 うき者一とんひるふり...
殿上 琴の音も月もえ命め者...
木柱 木うらふ次あすの...
夕暮 山うの...
改中 咲す...
夕暮 うら...
後 夕暮...
偏始 ああ...

源 はきる...
源 夕乃...
源 ...
日 ...
元 板...

うはせい

源 うはせ...
元 ...
なや...

夕のや

か細き 神の魂おひれ末もさぬるにいろく家の消んとすん
源 へ川さるるあまのうへにけはあすたひの神もあま
尾君 まへ申ふこよひ斗はあまの昔ふくさるん
源 吹まふふゆねらふふあまの昔ふくさるん
さくふ神あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
こや人よゆきかかへん山あまの山あまの山あまの山
信都 うとんけのむまらえさるん山あまの山あまの山
香 おく山あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
源 夕るあまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
尾君 まへ申ふふゆねらふふあまの昔ふくさるん

源 おもひハガをともたをせを山あまの山あまの山あまの山
尾君 尻うへ尾上るさくちぬるところあまの山あまの山
源 滝あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
尾君 くみと免くさくさく山あまの山あまの山あまの山
源 こても又あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
まの山あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
源 いまけあまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
日 手にほみくさくさく山あまの山あまの山あまの山
日 あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山
か細き よる山あまの山あまの山あまの山あまの山あまの山

源 朝あけけきく河夜乃まよひふもけりいふいふかとうけ
^{よみ人} 毎ちと備うきおれまふ花のいふいふ草のたけまふまふりい
源 祢え祢とあつれとまふむさしやけりけりいふまふまふらと
世 ころりまゆとまふ祢におあつないふあつまふ花けりまふん

まき清つむ花

源 ころりまの大内いにおはまきと入ふみせぬいさまひまふ
源 ころりまのまふまふいふまふと入候のまき清つたりぬ
日 いくらまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
^{小待長} 加ふはまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
源 ころりまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

日 夕き乃まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
末 橘 まきぬまふ乃月まの甲まおまひまこれまふまふまふまふ
源 朝日まふ朝のまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
日 ありまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
末 加ふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
源 ころりまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
命 ころりまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
源 ころりまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
日 ころりまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ

もみらのかみ

源 物れもあふさきまじりくもあひぬまの神すぢりりーんさつせふ
まつら 人の神あつさつをせれとたりぬふはけくさつふんま
源 いさほふむしむすれ契ふさのせりりり中のるさつそ
舎ぬ へさつさつぬさつさつあけくさつやせの人れさつさつ
源 よまへはさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
ま 神ぬさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源内付 君ーこたさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 さつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
内付 立ぬぬ人ーさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 人ほさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ

源 けさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 かんさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
内付 ねさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 あつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 けたえさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源内付 君さつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 けさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
ま ち乃えん
源 大さつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ
源 者さつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつさつ

早 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
源 みるくはるかにあはれし草のむらにわたりし
日 草のむらにわたりし草のむらにわたりし
大文 今もみくはるかにあはれし草のむらにわたりし
源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
繁 秋のむらにわたりし草のむらにわたりし
源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに

大文 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに

源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
源 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに
日 西のくさくさの草の間にわたりし草のむらに

内 寺川八十瀬乃るみふぬきしんいせまて流としわこせん
源 行方を御も申んは秋にあはほしをまうなるを
そら とも原にたのこ松くぬふきん下流ちりけ年のさるる
源 さえつる比のうみのさるるふみもこしつたさるる
金 年さるる岩井乃るあさらみ一人けり阿せもけり
鉄 んかこし神さるるあさるるさるるさるるさるる
源 ちけはけい我がこしりけりさるるさるるさるる
日 阿あさるるさるるさるるさるるさるるさるる
彦 ありまは娘と人けりさるるさるるさるるさるる
源 ちさちさるるさるるさるるさるるさるるさるる

紫 凡ふけりさるるさるるさるるさるるさるる
源 うさるるさるるさるるさるるさるるさるる
新 ちさるるさるるさるるさるるさるるさるる
彦 こつのはさるるさるるさるるさるるさるる
源 月新ハミ一せの秋さるるさるるさるるさるる
鉄 木さるるさるるさるるさるるさるるさるる
源 ちさるるさるるさるるさるるさるるさるる
彦 ちさるるさるるさるるさるるさるるさるる
源 月乃すさるるさるるさるるさるるさるる

夏 大なる花うきいふはせむらひのついでにせむらひとむらひをいふ(ま)
源 なみあかりのまのすみうとみらういふまのたわゆる松浦清
夏 ありせのなごういふあき浦いふまよる浪のあついでに
年中 ときもとうとあやむいふあき浦いふまよる浪のあついでに
源 時ふらけき咲むいふまのあき浦いふまよる浪のあついでに
花ちのよとい

源 とらうりえを志のいれぬ時多ふのこころいひ一宿乃りき福
女 時多のこころいひえいふあき浦いふまよる浪のあついでに
源 掃乃をあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
女 人あついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに

次

源 多ふいふとえいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
大文 あき人あついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
源 多ふいふとえいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
花 多ふいふとえいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
む教 月け乃やともしる神いせいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
源 多ふいふとえいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
日 あついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
源 多ふいふとえいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに
夏 多ふいふとえいもあついでに時多の花ちのよといふまよる浪のあついでに

源 意のひくちく秘まはるるははちあはるるのよつらぬとくらん
日 神丁のひくちく人乃くちくあはるるのよつらぬとくらん
よつらぬとくらん
これ光
たとのよつらぬとくらん
源 みつちくをさるるははちあはるるのよつらぬとくらん
日 うーとのひくちく(よつらぬとくらん)のよつらぬとくらん
みつちくをさるるははちあはるるのよつらぬとくらん
源 んあつてひくちくあはるるのよつらぬとくらん
日 山くちくあはるるのよつらぬとくらん

日 いつちくあはるるのよつらぬとくらん
日 友のちくあはるるのよつらぬとくらん
日 いつちくあはるるのよつらぬとくらん
日 あつちくあはるるのよつらぬとくらん
源 雲らくちくあはるるのよつらぬとくらん
中於 ちくあはるるのよつらぬとくらん
源 ちくあはるるのよつらぬとくらん
日 ちくあはるるのよつらぬとくらん

あつちく

思 へ風やいふゆゑんをひかへる神うちぬりし波よなきてう
源 流よす御神のいすきふらすか塔のやをあひふさすし浦は
日 なるふもちひやう物とふしうしうしうかちよ浦つひを
日 あらとるりあらは流のありれさくあるは浦をすめるよ秋月
入 ひとり神ハ君もさうぬやつしとむもひあうし浦はしきと
源 流 流るうしうちしきふあうしうしうはひらうはむむすしと
日 ぞらこらもちぬる井ふ流めさひうすあし宿の指をさる
入 かりむんおれしき井と流るひちひもかかしおひひるん
源 いぬせくもらふ物とるやむらねよやうふととふ人もたふみ
思 へ ちかんとのはらるるよふすまひぬ人のまきうあやま兼

源 秋のよ秋月色のよ海よ我うあうの井ふをれけのまもらん
日 むつしとさうしうあらむ人かうねうまのまもあふむむむむ
思 へ ねねねにやうまもくうらふふむむむむむむむむむむむ
源 ちかんとまうらうをむらうらうらうらうらうらうらうらう
思 へ うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
源 せうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
思 へ りきいけあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
日 ちかんとまうらうのあうらうらうらうらうらうらうらうらう
源 何あまのくみふ葉の甲のまのまのまのまのまのまのまのま
日 うちすくしうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

明石 一ノ海はあまのついでに...
日入るも 一ノ海はあまのついでに...
源 一ノ海はあまのついでに...
日 一ノ海はあまのついでに...
海門 一ノ海はあまのついでに...
源 一ノ海はあまのついでに...
お言 一ノ海はあまのついでに...
源 一ノ海はあまのついでに...

女と海

源 一ノ海はあまのついでに...
乳母 一ノ海はあまのついでに...
源 一ノ海はあまのついでに...
お言 一ノ海はあまのついでに...
源 一ノ海はあまのついでに...
日 一ノ海はあまのついでに...
お言 一ノ海はあまのついでに...
お言 一ノ海はあまのついでに...

源 とうちん〜〜〜あふふあふ〜〜〜のあふあふ〜〜〜
流 すすむ〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
源 あ〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
日 子〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
明 け〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
源 け〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
日 あ〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
女 々〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

よ

末摘 たも〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

ゆ 後 ち〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
末 あ〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
源 ち〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
日 首〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
末 ち〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
源 ち〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
日 あ〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜
末 あ〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

あ

りらーと整りーこまめたのまも松のまもふも福もまも一
冷帝製
月のまもふからあるの里まもふこもまもふのまもまも
源 久もまもふらまもまもまもまもまもまもまもまもまも
日 免もまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
双中ね
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
大不并
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
らまもまも
つと
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
めと
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
つと
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

源 おひとあー福もまもまもまもまもまもまもまもまもまも
はま まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
源 ちまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
日 入もまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
日 入もまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
つと
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
源 まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
つと
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
源
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
つと
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

源 意のなるまにそねあはれをまうりしにあらすちとたつゆまうり
 末のまじりてわらへたしをきくしなむとてしるしん種をまじり
 源 かしんりうふりしやまのまはるまはるまはるまはるひよまを
 んん

源 うすめにけぬをたうりしにせふたきひあぶらけをあしふ
 実 くりあぶたのこゝろをたうりしにせふたきひあぶらけをあしふ
 明 年月をまうりしにせふたきひあぶらけをあしふ
 姫 ひとりのこゝろにせふたきひあぶらけをあしふ
 明 りりしやまの種をまじりしはるまのまはるまはるまはる
 源 ありしやまの種をまじりしはるまのまはるまはるまはる

いん

女房を 風がけの波の花をくさくさくしてあはれをまうりしにせふたきひあぶらけをあしふ
 日 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ
 日 飛のこゝろにせふたきひあぶらけをあしふ
 口 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ
 言 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ
 源 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ
 実 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ
 秋 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ
 柏木 春の池や井もたれにせふたきひあぶらけをあしふ

源 ませのらふ縁かうくし一竹のまはよよふたせなる
 玉 いまふらふいんよのたけのあひまあきん縁かうくし
 源 たりもろかり一神ふよふまじくつらまのまあひぬりぬ
 玉 神ふまはよふまじくつらまのまあひぬりぬ
 源 うらとけい縁かうくし一竹のまはよよふたせなる

あひぬりぬ

玉 あひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬ
 玉 あひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬ
 玉 あひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬ
 玉 あひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬあひぬりぬ

源 ませのらふ縁かうくし一竹のまはよよふたせなる
 玉 いまふらふいんよのたけのあひまあきん縁かうくし
 源 たりもろかり一神ふよふまじくつらまのまあひぬりぬ
 玉 神ふまはよふまじくつらまのまあひぬりぬ
 源 うらとけい縁かうくし一竹のまはよよふたせなる

あひぬりぬ

源 ませのらふ縁かうくし一竹のまはよよふたせなる
 玉 いまふらふいんよのたけのあひまあきん縁かうくし
 源 たりもろかり一神ふよふまじくつらまのまあひぬりぬ
 玉 神ふまはよふまじくつらまのまあひぬりぬ
 源 うらとけい縁かうくし一竹のまはよよふたせなる

あひぬりぬ

中
 代
 末
 末

源
くろく史ふたらしく意れきつてもせうにえせぬあのかみせも
玉 行来なきふらふらてよつ火るこもりにたけし橋をわしは
ゆきいせし

紫
おあつた萩るをこころのまきもみまきつるのこころにきく
玉 吹さる風乃きまきまきつるをこころにきく
源 下高よあしきまきまきつるをこころにきく
夕 凡さるをきくまきまきつるをこころにきく
いせし

次
源 ともあつたきまきまきつるをこころにきく
いせし

玉
源 あつたきまきまきつるをこころにきく
大 ともあつたきまきまきつるをこころにきく
末 我がこころにきくまきまきつるをこころにきく
源 かきまきまきつるをこころにきく
川大 ともあつたきまきまきつるをこころにきく
源 よろしくあつたきまきまきつるをこころにきく
あつたきまきまきつるをこころにきく
夕 ともあつたきまきまきつるをこころにきく
玉 ともあつたきまきまきつるをこころにきく

拍子
いふまじりあるさしはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
玉　まふりたるはかりなくのちかえりしはなしの静かなる
巻五　おちたふらりしはなしのちかえりしはなしの静かなる
管　船はしるしはなしのちかえりしはなしの静かなる
尺八　志すまじりしはなしのちかえりしはなしの静かなる
玉　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる

おちたふらりし

源　おちたふらりしはなしのちかえりしはなしの静かなる
玉　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
巻五　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる

巻五　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
ひげ玉　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
花　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
小方　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
中巻　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
巻五　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
源山　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
流　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
玉　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる
丸　んもてはてしなくのちかえりしはなしの静かなる

玉 加斗ハ流小流ニヨモ入ルヨシキルカハクハク
源 ンタラシクモモタラシクモモタラシクモモ
玉 ありあす。新乃きつに神もあす。あすのあす
源 おわらばあすの中なるるるるるるるるるるる
口 初れす。あすのあすのあすのあすのあすのあす
玉 すとれ。あすのあすのあすのあすのあすのあす
と君 仲はあすのあすのあすのあすのあすのあす
よるあすのあすのあすのあすのあすのあす
梅りん

源 ちのえい。あすのあすのあすのあすのあすのあす
源 しくり。あすのあすのあすのあすのあすのあす
源 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
木 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
夕 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
年か ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
源 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
源 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
夕 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす
千井 ちもあすのあすのあすのあすのあすのあす

たけのこ

致は 我もたけのこのたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
夕 中ぶちもりもろくをのたをひこくはひひひひひひひひひひひ
致は 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
夕 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
柏木 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
香 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
夕 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
夕 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
夕 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ

後 かさかきもろくをのたをひこくはひひひひひひひひひひひ
夕 あさみもろくをのたをひこくはひひひひひひひひひひひ
左衛門 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
夕 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
香 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
致は 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
寧ろ 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
源 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
致は 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ
葉 葉のたけをまいてこそうりてはる喜ぶるはせ

吟よのこひるまぢらひんらふ(6) ぬしひりきる危の端ぞ
わづか上

秋好 きあうしむしと今よこしめはにほくしめ秋はひのよき
朱 さしきふみわもまの美代をほむのまのの秋はひのよき
玉 ちかきしほゆくの小松さりの秋はひのよき
源 小松京す朱乃よりひよきわを秋(6)のよき
紫 めふちううつれいりせ中とひ末をくしめ
源 命こそめいりあはれいよのこひるまぢらひんらふ(6) ぬし
日 申んを念いりほいあけまをくしめけさのあり
せとわねてうのよきをほめくしめたよきあはれ

朱 きむきあしよのせふのりりあしりらふ(6) ぬし
貞 きむしせりうめいりりあはれをくしめ
源 年月を中よ念そあはれをくしめ
秋 あしよのせふをくしめあはれをくしめ
源 ちりしよのせふをくしめあはれをくしめ
秋 身をけむらもまのの 測あしりけしめ
貞 身よちりし秋をくしめあはれをくしめ
源 あき乃きをくしめあはれをくしめ
貞 身乃浪くしめあはれをくしめ
紫 志乃浪くしめあはれをくしめ

世をすてあしは浦をすむ人もこの世にたがへしや
入るひるもああるきとてぬふきり今もかよはれかえりすれ
柏木 いらあきハ花小木のつらき言乃さくしをいけを祝くといせぬ
夕 小山木は緑くしきしむひのまはもまいつてり花乃いろよあくま
柏木 よそにえくたしぬかけまはしけしもあふりきしき花の夕顔
かうさふいらふあもよふはくしおよひぬ枝をさくろくはぬか

わらわ下

柏木 意はふ人のうらみとてあはせふあれよ何とてあしきあはん
源 折つまのち海をうらみすみよは神ををんるまうし
尼云 よみのかをいけるひあははとてあはれもあはれもあはれ

日明
あは

すししとてえりすしきぬ恒吉乃神のちりしをんるまうし
世 すみ乃は乃まりよぬふくもくさぬハ神のはらるもあつらも
世 神人乃もにらるる神をよもゆんけしあふいせよのあ
中世 ともうあつちらまひしきあはけしいらるる神のちり
柏木 れきをけすもあしあはれよいつのあのかをてあり
か三 ゆくれ乃そふくしきハ清をんるあなりとみてもあはく
柏 くらや月をけしとてしんあひき神のあしをのちあしぬ
日 もろくくちあはれを何ふむろひせんあはむしきいかにあはれも
あけ 我がてあしあはれもあしとあはくしそあはれすのあはきみなり
世 きつんとあはれもあはくしとあはれすのあはくくをうらむ

源 ちまうりやうじのせあはまらすまもわあのかんか
廿二 夕暮は神あはまひくはあはまはまはまはま
源 まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
日 阿のせあはまはまはまはまはまはまはまはまはま
源 あはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

木一を木

柏 いはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
廿二 たらそひはまはまはまはまはまはまはまはまはま
柏 はまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
源 たらそひはまはまはまはまはまはまはまはまはま

夕 叶し阿まはまはまはまはまはまはまはまはまはま
廿二 けまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
源 木のはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
夕 ちまうりやうじのせあはまらすまもわあのかんか
源 うはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
夕 まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
源 木一を木一を木一を木一を木一を木一を木一を木一を

木一を木

廿二 木一を木一を木一を木一を木一を木一を木一を木一を
源 木一を木一を木一を木一を木一を木一を木一を木一を

夕 玉一のどつねをき神よさあをこ我ころこまらるる
日 せくくふ漢くそえむ山川なるぬこのぬせつみたるすき
夕 女帝を志るやゆ道哉いりこごとく一敷をうりのお夜よりき
夕 秋のゆきまの志けふふかーつこかり縁の抱むすびやきせー
夕 ありれどもいふさうさあさめんあるやいひあきやうあーた
夕 いろとらふまを海めんきえくろあゆもそのまのうとぬせを
日 里をここのの系分てまを我もさうてそとあもたーま縁
夕 夢てもあきま秋乃山人の志るるあまに福をもおくけり
夕 人一人のけすみたる女流なる独りも秋の夜をふはは
日 いはとらおとろすすあきまよあまのこらひーあまのこ

夕 鈴夕のあまをばいりこゆのゆきまをいりあまをきまをーの
日 のあまのーのゆきまをいりあまをいりあまをいりあまを
日 意一あまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 うみこひむのあひらまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 ちねのあまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 松一あまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 葉あまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 かふのあまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 ねあまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを
夕 人のせらあまをいりあまをいりあまをいりあまをいりあまを

いのち

世はつねはながちとて途とてこゝろをふくむらんとのち
 づかたきこふおひひらきつるやちよたけいれつらたまふ
 さまらるるおははるるるらるるらるるるらるるらるるら
 せむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす
 さまらるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるら
 源 庭もせらるるるらるるるらるるらるるらるるらるるら
 時 秋風よちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
 夕 いち(の秋)のたるるるるらるるらるるらるるらるるら
 法住 古(の秋)今(のち)比(て)せむすむすむすむすむすむす

源 庭もせらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら

秋好

のち(の秋)のたるるらるるらるるらるるらるるらるるら

せむすむす

我らもいもよそも人たるちりちりちりちりちりちりちり

うもせらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら

うもせらるるらるるらるるらるるらるるらるるらるるら

今(の秋)のたるるらるるらるるらるるらるるらるるら

あらしもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

あらしもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

日 船のけおれもみえ次第こしよのちやまらきひのり
大 重たなる空のけれを秋香乃いこしつら神をぬき
大 けし娘乃らとくみこきぬすすちのちり小神をのり
大 さくちのちの海を船夕のちりくや神をくしん
柳太 女のまふはせとちりくやぬすちのちりくや
日 今あつはきしよのちりくやぬすちのちりくや
ちのちりくや

ハ 山はよすちりくやぬすちのちりくや
白 ちのちりくやぬすちのちりくや
日 山はよすちりくやぬすちのちりくや

ハ かしこもたよりふしりのちりくやぬすちのちりくや
日 我あつちりくやぬすちのちりくや
多 いうちんせふかきしんせふちりくやぬすちのちりくや
白 ちりくやぬすちのちりくや
大 ちりくやぬすちのちりくや
白 ちりくやぬすちのちりくや
大 ちりくやぬすちのちりくや
大 ちりくやぬすちのちりくや
大 ちりくやぬすちのちりくや
大 ちりくやぬすちのちりくや

中 木く山乃まつ紫よりの花をたふさく人とおのち
 大 宮あつたしのけ梅君あつてあつたあつたみる
 大 づらつちこはつたつたつたつたつたつたつた
 日 立よんをと敷一推もつたつたつたつたつた
 大 君つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 中 君あつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 白 つてふんつたつたつたつたつたつたつたつた
 中 いつとつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 兼 あけまは

大 ぬまのちつたつたつたつたつたつたつたつた
 兼 山つたつたつたつたつたつたつたつたつた
 大 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 兼 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 大 山つたつたつたつたつたつたつたつたつた
 白 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 兼 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 日 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 大 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 白 ちつたつたつたつたつたつたつたつたつた

大 へいへいあきいん斗いりよとあきし一神よりきしとあきし
 白 中へえむおあきあきに捨娘入りし一神やよふぬらん
 中 多えを一神我へのみやう信捨るるを泥舟と信捨るる
 源 幸お いはをやとものぬふとあきし一本のぬふしや秋に淋し
 ありさしとあきしひさしすも笑白もも茂ちちもはひあきあきせ
 大 落いつこよる秋にけきんじさるぬあきしのけいりぬぬぬぬぬぬ
 中 文 一人もあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 白 秋をて淋しき捨る本のもよゆあきし一も幸なりまじりぬ
 日 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 日 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 中 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 日 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 日 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 中 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし
 白 ありあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきしあきし

中 文
 大 落

日よきしむるくさるる白雲の葉とてきり一軒の下の花
十きえぬまたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
夕大空のくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
中山さすけまつのけしむかく斗ふよむ秋乃凡かき
鳥女帝もたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
中おほくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
あまら
うち後一せふも一あまら
荒 深くくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
日よきしむるくさるる白雲の葉とてきり一軒の下の花
十きえぬまたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
夕大空のくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
中山さすけまつのけしむかく斗ふよむ秋乃凡かき
鳥女帝もたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
中おほくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
あまら
うち後一せふも一あまら

中よきしむるくさるる白雲の葉とてきり一軒の下の花
十きえぬまたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
夕大空のくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
中山さすけまつのけしむかく斗ふよむ秋乃凡かき
鳥女帝もたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
中おほくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
あまら
うち後一せふも一あまら
荒 深くくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
日よきしむるくさるる白雲の葉とてきり一軒の下の花
十きえぬまたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
夕大空のくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
中山さすけまつのけしむかく斗ふよむ秋乃凡かき
鳥女帝もたぬれぬ花のたぬきふとくろくあはれと増す
中おほくさるる花のたぬきふとくろくあはれと増す
あまら
うち後一せふも一あまら

浮 むらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
白 ともたつらむるまの橋なりししよむらたみのよすういあ
浮 むらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
白 ともたつらむるまの橋なりししよむらたみのよすういあ
浮 むらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
白 ともたつらむるまの橋なりししよむらたみのよすういあ

蒸 海いあけはともすす末のおまゝいんくのあゆみ
白 いはさふのむらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあ
浮 むらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
口 かゝらむらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
口 橋ふあけはともすす末のおまゝいんくのあゆみ
口 むらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
蒸 ともたつらむるまの橋なりししよむらたみのよすういあ
白 まむらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ
蒸 橋もまむらたみのよすういあやせしうち橋をくちせぬあをむあのみ

小澤お あらまじらうこころい人よむらぬとほふ〜
業 つれか〜さうらむをよみ〜
日 萩のこゝろあふまじらふ秋のたけなふりぬ
日 美みる〜
中好お ちよとすい〜
毎の おとと ちよとすい〜
業 宿うさ〜
日 ちよとすい〜
浮 ちよとすい〜

日 我〜
中好 何〜
尾天 う〜
中好 ちよとすい〜
尾天 秋のちよとすい〜
日 ちよとすい〜
中好 ちよとすい〜
尾天 ちよとすい〜
日 ちよとすい〜

尼君 少の川の板敷もさうしう ちいねもすまふよー へまよふ (さうさうさ
浮 ぬまの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
中ね 山さうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
浮 りさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
口 あまののふさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
口 ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
中ね きーさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
浮 りさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
尼君 木さうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
中ね まさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう

口 大さうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
浮 りさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
尼君 やさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
浮 あまのの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
口 神さうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
業 見さうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう
浮 あまのの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう

あまのの秋の夕さうらう

浮のりさうねの秋の夕さうらう ちいねもさうさう ちいねもさうさう ちいねもさうさう



